

自治研 UNDER35 in 鯖江 「鯖江市役所 JK 課 × 自治研 ゆるぶろ」 自治研の面白さなど実感



自治研集会で発足した全国の35歳以下の若者による UNDER35 グループが「若者による若者のための企画」として開かれたもので、鯖江市役所 JK 課に参加する女子高生や鯖江市職員、鯖江市長も参加しました。

当日は、JK 課プロデューサーでもある若新雄純さん（慶応義塾大学特任助教）から「ゆるい公務員、わからないと言えるか」の基調講演から始まり、二日目には牧野鯖江市長が行政としての関わり方などを講演、その後は各班に分かれての野外活動も含めたフィールドワークに移りました。

三日目には「地域に戻ってやりたいこと」をテーマとしたワークショップが行われました。

これらの内容は自治労働機関紙「じちろう」でも特集され、参加者の声として「具体的な計画がなくとも先ず地域に一步踏み出して小さいことから始めたい」「鯖江の経験を地域でいかしたい」「自治研の面白さを感じた、これから組合をとおして地域をゆるく盛り上げたい」などが紹介されました。

10月10日から12日の三日間、鯖江市に全国の35歳以下の若者約50人が参加し「鯖江市役所 JK 課」とコラボしての「JK 課 × 自治研 ゆるぶろ」が行われました。この取り組みは昨年秋の佐賀自

NPO法人丹南市民自治研センター 「戦争と平和を語り継ぐ集い」 越前市で開催



代の幅広い年代の市民120名が参加しました。

この中では、中国の南京や蘇州での戦争状況を記す父親の従軍日記をもとに高校生が作成したDVD映像の紹介、幼少のころの今立地区での体験、紙芝居で伝える福井空襲の実態、旧満州で母を亡くした体験や満蒙開拓団の悲惨さなどが4名から語られました。

それぞれ違った立場からの戦争実態についての話を聞いた参加者からは、絶対に戦争を繰り返してはいけない、遠くに思った戦争が他人ごとではなく身近に感じた、最近の平和憲法の解釈改憲や集団的自衛権の行方に危機感を持って、今後も戦争の現実や平和の問題について語り継ぐことが大事、などの感想が寄せられました。

坂井あわら自治研センター講演会 街の発展は、私たちの手で

NPO法人丹南市民自治研究センターは、10月8日、越前市福祉健康センターで「戦争と平和を語り継ぐ集い」を開き、20代から80代幅広い年代の市民120名が参加しました。

坂井あわら市民自治研究センターは、9月1日「坂井市地域交流センターいねす」で、街の発展は私たちの手でテーマとした講演

街の発展は、私達の手で。 坂井あわら市民自治研究センター記念講演会

期日・9月1日(火)18時より
会場・坂井地域交流センター
いねす 交流ホール

●どなたでも参加できます。
●参加費は、無料です。



越前市によるネームストラップ

あわら市、フェイスブックの使い方



あわら市、フェイスブックの使い方

フェイスブックとは

ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)の主流は、人と人とのコミュニケーションにあります。友人・知人のコミュニケーションを促進する手段や、あるいは趣味や嗜好、居住地、出身校、「友人の友人」といった自己と直接関係のない人との繋がりを通じて新たな人間関係を築く場を提供しているのです。このSNSの中で世界中では数億人の会員を持っているのが、フェイスブックなのです。

坂井あわら市民自治研究センター

連絡先 坂井市大和田2-517 0776-57-5800

自治労福井県本部公営企業評議会
美味しい水は、どれ？
「利き水大会」大盛況

8月2日、自治労福井県本部公営企業評議会は、福井市のショッピングセンター「ラブリートパートナー エルパ」で「利き水大会」



を開催しました。
住民サービスの最前線で働く公営企業職員(上下水道や電気・ガスなど地方自治体自らが運営・事業を行っている「地方公営企業」で働く職員)の仕事内容を市民の皆さんに知っていただくことを企画したものです。
「利き水大会」では、奥越前のおいしい水、水道水(大野市)、ミネラルウォーターの3種類を準備しました。多くの方が続々と訪れ、水の味を確かめながら飲み比べていただきました。

どこの水かを当てるだけでなく、どの水が一番美味しく感じたのかも解答用紙にお答えいただきました。参加された147名中、33名の方がすべての水を飲み当てる全問正解！

利き水待ちの市民の皆さまの列ができるほど大盛況でした。私たちの生活になくてはならない水、その循環に、より関心をもつていただくことができました。

政策研究会 初会合 「人口減少問題」と「人材育成」 でグループ別研究

福井県地方自治研究センターと自治労福井県本部が共催しての政策研究会が、8月18日と8月31日に二つの課題別で開かれました。

この政策研究会は「人口減少と自治体の施策」と「人材育成」の課題ごとにチームを組み、分析と研究を目的として発足したものです。

「人口減少問題」では最近の県内自治体の現状を分析しながら、対応する自治体の施策を報告し効

果的な対応について討論を深めました。「人材育成」では、最近の越前市の事例を中心に自治体としての採用や研修のあり方などについて各自自治体の取り組みの話し合いが行われ、論議の中では職員研修に対する組合の取り組みの重要性が多く語られました。





◎活動の記録（2015年7月～12月）

- ・7月24日 自治研ふくい59号発行
- ・7月31日 第43回ちよつといつて講座「ハイトスピーチとは何か」（県国際交流会館）
- ・8月3日 県本部自治研推進委員会（自治労県本部会館）
- ・8月18日 県本部自治研推進委員会【人口問題政策研究】（自治労県本部会館）
- ・8月31日 県本部自治研推進委員会【人材育成政策研究】（自治労県本部会館）
- ・9月28日 自治研ふくい編集委員会（自治労県本部会館）
- ・10月1日 北信地連自治研推進委員会（自治労とやま会館）
- ・10月2日 3日 福井県地方自治研究集会 in 大野（大野市結とびあ）
- ・10月8日 丹南自治研センター「戦争と平和を語り継ぐ集い」（越前市福祉健康センター）
- ・10月26日 27日 北信地連地方自治研究集会（長野市ホテル国際21）
- ・10月21日 働く女性のカフェセミナー取材
- ・10月30日 安保関連法に反対するママの会福井 取材
- ・11月18日 職場探訪「三国競艇」取材
- ・12月10日 丹南自治研センター「福井新聞社・里山に暮らした新聞記者の挑戦」
- ・12月15日 越前市福祉健康センター
- ・12月15日 坂井あわら自治研センター「市民がつくる市役所に」（坂井市いねす）

◎編集後記

今回初めて『自治研ふくい』の編集に携わらせていただきました。編集会議をはじめとして様々なイベントの参加、いろんな人へのインタビューを通じて、「自治研っておもしろい!」、「自治研って自由だ!」ということを感じました。

その理由は、興味・関心のあるテーマを・自分のペースで・自分独自の切り口で考えていくといった自治研の流れを実際に体験していくなかで、これまでの私がとらわれていた「・・・しなければならぬ」とか「・・・してはいけない」といった観念から解放してくれるものだったからです。

自分たちの地域は自分たちが考え、自分たちの手でより良くしていくといった取り組みは長い道のりだと感じることもあると思います。

この『自治研ふくい』はそんな皆さんが奮闘しながら歩んでいる道のりの一瞬をご紹介しますことで、それぞれが取り組んでおられる自治研活動の前進の一助になればと思います。

（編集部 圭）

◎投稿募集!

「自治研ふくい」では、自治体や地域での面白い取り組み、面白い人たちの情報を探しています。

【自治研 福井】フェイスブックを検索して、情報提供、そしてついでに【いいね!】をお願いします。

ホームページでもURLを掲載しています。自治体の動きや活動、職場での話題など、お気軽に書き込んでください。



福井県地方自治研究センター会員募集

自治研センターの会員を募集しています。ぜひ積極的な加入をお願いします。

個人会員 1年間 2,000円 団体会員 1口 5,000円

●活動内容と会員サービス

1. 当自治研センターが主催する各種講演会、学習会について会員の皆さんにご案内を差し上げます。
2. 会員が集会や講演会をされる場合、講師のご紹介や会場の斡旋を行います。
3. 住民本位の地域政策を策定していくため、課題別の研究会を設け、活動を進めます。
4. 当センターの活動経過や各種情報、研究成果等を掲載する「自治研ふくい」を発刊し、会員にはご自宅へ無料で送付します。

【申込先】

〒910-0836 福井市大和田2丁目517番地

自治労福井県本部内

TEL(0776)57-5800 FAX(0776)57-0690

E-mail:f-jichiken@j-fukui.jp